



■ビオトープ・サロン 生物多様性保全 ～地方創生と生物多様性～

地方創生が求められる昨今、生物多様性保全と地域経済活性化をつなぐ方策の一つに、一部ではエコツーリズムに関心が寄せられています。日本の自然や文化を代表する京都府がボケストップを申請するご時世、果たしてエコツアーは地方創生の一助となり得るか！？…「環境省」「NPO 法人日本エコツーリズム協会」「NPO 法人日本エコツーリズムセンター」などのHPから、まずは「エコツーリズムとは？」から始め、次号と2回にわたり話題を提供したいと思えます。いっしょに考えてみましょう。(編集局)

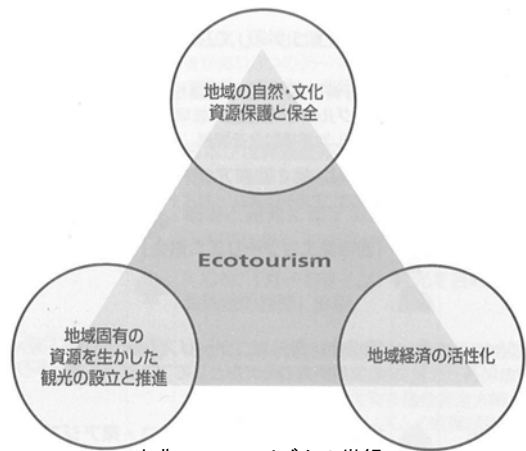
【エコツーリズムを考える(その1)～エコツーリズムとエコツアー～】

エコツーリズムは「自然保護のための経済活動」ととらえていましたが、どうも違うようです。また、「グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなどの違いは？」と考えると、明確に区分しがたい一面があります。これは、我が国日本には原生的な自然がわずかで、多くは二次的自然で占められていることが要因とも考えられます。そこで、まずは定義や歴史について紐解いてみましょう。

1. エコツーリズムの定義

エコツーリズムの定義は、エコツーリズムを語る人の数だけ存在すると言われていています。これはビオトープにも似ていますが、以下に代表例を列記します。

- ① 環境問題に重点を置きながら、自然と調和した観光開発を進めようという考え方。←デジタル大辞泉
- ② 自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光の在り方。←百科事典マイペディア
- ③ 観光や旅行を通じて自然保護や環境保全への理解を深めようという考え方。←ブリタニカ国際大百科事典
- ④ エコロジー(生態系や環境)とツーリズム(観光)の共生を図ろうという考え方。←日本大百科全書



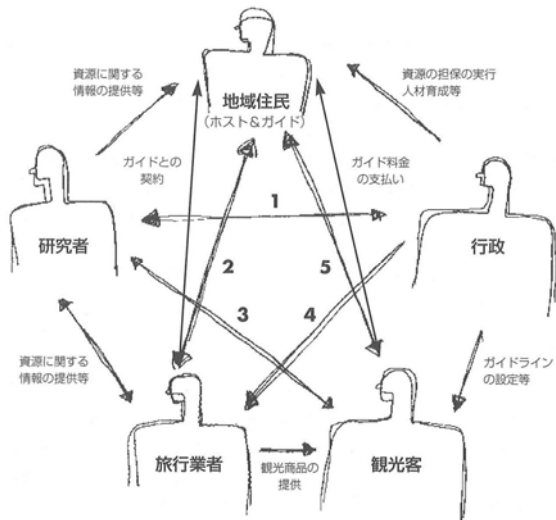
出典：エコツーリズムの世紀へ
(NPO 法人日本エコツーリズム協会)

2. エコツーリズムの歴史

地球レベルでの環境問題の深刻化と持続可能な開発を目指す世界的な動きが背景にあるようです。

1972年の国連会議に端を発し、1980年の「持続可能な開発」というキーワードが初めて用いられた「世界保全戦略」の発表を契機に、観光分野における「持続可能な開発」への基本理念として各国際機関で取り上げられ、世界的に普及したと言われていています。

こうした中で、自然保護家は、敵視しがちであった観光(開発)を「自然を守る経済手段」としてとらえるようになり、環境教育分野においても「優れた資源から直接環境を学ぶ機会」として着目されました。



1. 資源管理のための調査研究
2. 施設と観光資源に関する情報の共有
3. サイトの環境の情報共有
4. ガイドラインの設定
5. 現地体験の提供

出典：エコツーリズムの世紀へ
(NPO 法人日本エコツーリズム協会)

3. エコツーリズムの推進体制

従来型の観光は、観光客と観光業者だけでも成立し、送り込みと受け入れで金が落ちる仕組みでした。

エコツーリズムの場合は、資源管理を核に資源の状況に応じて観光客を誘導する形で成立します。したがって、地域住民、研究者、行政、観光業者、観光客という少なくとも五つの主体が参画する必要があります。

4. 持続可能な地域資源の保全と利用に向けて

地域の自然や伝統文化の資源価値とはいかなるものでしょう？…地域経済活性化につながるのか？…「まち・ひと・しごと」につながるのか？…そして、資源の保全につながるのか？…この問いへの答えは難しい。しかし、工夫によって価値を高め、持続可能な保全と利用の方策はありそうです。その一つは、多様な連携による付加価値の質的向上と、有能で魅力的(容姿ではなく内的魅力)なガイドの存在であり、保全と利用の管理運営体制と推進する人材の質が課題のように思います。

エコツアーは、エコツーリズムの理念に沿った「環境保全型の旅行」ということになります。

■みんなの“たからもの”

名ハンター現る ～嫌われ者が実は益虫だった？～



遭遇したのはマミジロハエトリのようです。ハエトリグモの仲間は種類が多く **500属 5000種**とされています。Webでも30種近くが紹介されています。092号で紹介のあったタカアシグモと同様に**徘徊性のクモ**で、巣をかけずに歩き回ったり、待ち伏せしたりして獲物を捕獲します。

食性は、その名のとおり主にハエなどの小型昆虫ですが、クモやアリに特化した種もいるようで、アリにそっくりの姿をしてアリを襲うものもいます。

家の中にもいてハエやゴキブリの幼体を食べてくれる**益虫**です。ちなみに、誰にも嫌がられるグシグシもゴキブリなどを食し、益虫と言えます。そもそもは益虫も害虫もなく、**人間の都合**に過ぎませんが。(編集局)

【ハエトリは本当だった！：Kさん】 2016.09.03
ナンテンの葉の上で見つけました。ハエトリグモというのは知っていましたが、ほんとにハエをとっているのは初めての遭遇です。家の中で見るのは体全体に縞模様がありますが、これは頭部が黒色で先端に白一文字、腹部は茶色でした。よく目にするものとは種類が違うようです。

■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施工部門の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問 095：野生生物保護に配慮した雑木林管理について述べた次の文のうち、誤っているのはどれですか。

1. 雑木林の林床管理に際しては、定期的な草刈により開けた空間を作り出すことで、多くの植物や昆虫類の生息環境を維持することは重要であるが、一方では低木などが繁茂した藪を残すことで、ウグイスなどの小鳥類の生息環境を確保することも重要である。
2. 市民参加型の雑木林管理として、雑木林の中に大勢の人が頻繁に入ることは、森林土壌が踏圧され、望ましいとはいえない。
3. 枯れ木、倒木を部分的に残し、コゲラなどのキツツキ類や多くの昆虫、菌類の生息環境を確保するという考えも重要である。
4. 巨木や老齢木は、希少な樹洞性のコウモリが生息環境として利用することも稀にあるが、不慮の倒壊により人身に被害が及び危険性が高いので、立ち入りを制限しているところでも、定期的に点検して、発見し次第、原則、伐採するようにする。
5. 行動圏の広いオオタカなどの猛禽類、複数のビオトープを利用する両生類や昆虫類などの保全のために、雑木林だけに管理の視点を限定することなく、周囲に存在する河川、池沼、草地などをも含めた広域的視点で、管理を行う。

■前号 094 (計画部門の択一問題) の正答 [5]

生物多様性保全を重視した公園における観察施設の整備は、①観察路は自然の地形、植生を生かしたコースとし、**道幅は必要最小限**にします。②規模の小さな池については、**立ち入りを一部に制限し**昆虫や魚類などの生息場環境の保全に努めます。③観察路は生きものの移動を妨げないよう土や飛び石あるいは丸太など、**自然に近い素材や構造**とします。④観察小屋は、野生生物に存在が分かりにくいように、色彩、デザインは**周囲の自然に調和**し目立たないようにします。⑤観察小屋に野鳥観察のために双眼鏡を備え付ける場合、**倍率は7～8倍程度**のものにします。このように、生息する生きものの生態を理解し、**生息環境を損なわない範囲内**にとどめることが必要です。

2級はどなたでも受験できます。四国の会場は徳島でしたが、徳島会場は28年度が最後かもしれません。**次年度の受験案内にご注意**ください。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局
【ご意見・お問い合わせは E-mail: kanv@nifty.com へ】 【バックナンバーは URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com> から】